

国語通信

はまなす



令和6年 4月 NO. 1

今年度の部会研究の始まりにあたり

石教研国語（小）部会
部長 福島 剛

学校教育には主体的且つ協働しながら未来社会を切り拓き、持続可能な社会の創り手となれる資質や能力を培うことが求められています。その第1歩となるのが、言語活動の充実ではないかと思います。

令和6年度も、石教研国語（小）部会へ登録していただきありがとうございます。

今年度は、研究主題『資質・能力を育成する言語活動の創造～話すこと・聞くこと教材における「言語活動」の効果的な活用を通して』と設定した2ヵ年計画の最終年度となります。学校においては、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促し、課題の発見・解決等に結びつける教科等横断的な教育活動を展開することが必要となります。研究主題にある「言語活動の創造」は、まさにこの教育課題に直結するものだと考えます。今年度も、研究が充実したものになるだろうと今から楽しみにしています。昨年度から、部会は低学年と高学年の2部会になったことで、たくさんの先生方のアイデアが反映され、研究にさらなる広がりや深まりが生まれました。その研究成果を交流する2次研究協議会は北広島市が中心サークルとなります。新しい教科書となり「話す・聞く」教材もこれまでになかったものがあります。皆さんの情熱とアイデアを集結してすばらしい研究協議会になることを願っています。8月30日（金）には筑波大学附属小の青山由紀先生によるリモート実技理論研修会を予定しています。部会員の皆様の国語に対する見識が少しでも高まり、新たな気づきが1つでもあったとしたら、大変嬉しく思います。

今年度の研究が始まりますが、部会員の皆様におかれましては、様々な場面で、それぞれのお立場から、部会の研究活動に変わらぬお力添えをいただければと思います。私たち事務局も、これまで以上にわかりやすい部会運営と情報の発信に努め、部会の大切な共同研究に微力ながら貢献して行く所存ですので、ご理解とご協力の程、よろしく願い申し上げます。

1 令和6年度 役員・推進委員・教育課程委員名簿

【役員】

| 役職 | 役員 | 学校名 |
|--------|----|-----|
| 部長 | | |
| 副部長 | | |
| 事務局長 | | |
| 事務局次長 | | |
| 研究員 | | |
| 教育課程代表 | | |

【推進委員】

| 市町村 | 推進委員・連絡員 | 推進委員学校名 |
|--------|----------|---------|
| 千歳市 | | |
| 恵庭市 | | |
| 北広島市 | | |
| 江別市 | | |
| 石狩市 | | |
| 当別・新篠津 | | |

【教育課程研究委員】

| 任期(年度) | 選出サークル | 氏名 | 学校名 |
|--------|--------|----|-----|
| 7年度 | 千歳 | | |
| 7年度 | 恵庭 | | |
| 6年度 | 石狩 | | |
| 7年度 | 江別 | | |
| 6年度 | 北広島 | | |

2 次年度役員選出について

| 役員 | 選出サークル |
|-----------|-----------------------------|
| ① 研究員 | 江別サークルから1名選出 |
| ② 事務局次長 | 恵庭サークルから1名選出 |
| ③ 教育課程委員会 | 石狩・北広島サークルから1名を教育課程代表（任期1年） |

—役員をつながり任期について—

| 研究2年毎 | 2023 R5 | 2024 R6 | 2025 R7 | 2026 R8 | 2027 R9 | 2028 R10 | 2029 R11 | 2030 R12 | 2031 R13 |
|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 部長 | 岩崎 | 福島 | 鹿島 | 北広島 1 | 江別 2 | 千歳 3 | 恵庭 4 | 石狩 5 | 北広島 6 |
| 副部長 (研究計画作成) | 福島 | 鹿島 | 北広島 1 | 江別 2 | 千歳 3 | 恵庭 4 | 石狩 5 | 北広島 6 | 江別 7 |
| 研究員 | 鹿島 | 北広島 1 | 江別 2 | 千歳 3 | 恵庭 4 | 石狩 5 | 北広島 6 | 江別 7 | 千歳 8 |
| 事務局長 | 阿部 | 藤原 | 熊谷 | 恵庭 A | 石狩 B | 北広島 D | 江別 E | 千歳 F | 恵庭 G |
| 事務局次長 | 藤原 | 熊谷 | 恵庭 A | 石狩 B | 北広島 | 江別 E | 千歳 F | 恵庭 G | 石狩 H |
| 教育課程委員会代表 | 松田 | 佐藤 | 石狩・ 北広 | 江・ 千・恵 | 石狩・ 北広 | 江・ 千・恵 | 石狩・ 北広 | 江・ 千・恵 | 石狩・ 北広 |

研究員（任期1年）を経た後、副部長（任期1年）を務め、部長（任期1年）を務めます。つまり、研究員→副部長→部長の3つの役職をする場合は3年間努めることになります。

また、事務局次長（任期1年）を経た後、事務局長（任期1年）を務めることになります。つまり、事務局次長→事務局長の2つの役職をする場合は、2年間努めることになります。

※当別・新篠津は人数が少ないので輪番に入れません。

国語(小)部会 第29期 研究計画

I. 研究主題

資質・能力を育成する言語活動の創造
～話すこと・聞くこと教材における「言語活動」の効果的な活用を通して～

II. 研究目的

1. 主題設定の理由

(1) 研究の経過

第26期（平成28～29年度）

「多様な手立てによる『総合的な国語の力』の育成」
～説明的文章教材における「表現のスキル」の習得と活用をめざして～

- ①第25期の「文学的文章教材」の両翼の一方を担う「説明的文章教材」を扱い、「つきたい力」を念頭に「手立て」を工夫する研究を進めた。
- ②系統立てた指導（『表現のスキル』系統表）、実態の把握、つきたい力とそれに応じた工夫が必要かつ重要であるという認識を部会員で共有することができた。

第27期（平成30～令和元年度）

「伝え合う力を高める授業の創造」
～思考力や想像力を養う表現活動の工夫を通して～

- ①『表現のしくみ』と『表現のスキル』の系統表の活用を通して、「思考力、想像力」を高めるための表現活動の工夫について研究を進めた。
- ②6年間の指導事項の系統性を念頭におき、身に付けさせたい力を明確にした学習指導の重要性について確認することができた。

第28期（令和2年～令和4年度）

「考えの形成につなげる新しい時代の国語教育」

- ①「読むこと」領域の「構造と内容の把握」「精査・解釈」の段階で、全体を見渡して大まかな構造や内容を捉えたうえで焦点化して授業を進めていく研究を進めた。
- ②文章理解を高めるために効果的な「主体的・効果的で深い学び」の視点に立った指導計画の重要性について確認することができた。

新「学習指導要領」の国語科の目標で「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す」となっているように言語活動は目的ではなく手段である。

第28期で研究してきた「読むこと」領域では、「構造内容の把握」「精査・解釈」のための指導事項を明確にし、それを切り口にして新しい読み方を研究してきた。大切なのは、その教材を使

って資質・能力を育成することであり、言語活動が成功するか否かではないことを確認しておきたい。

第29期は、「話すこと・聞くこと」領域の〔思考力・判断力・表現力等〕の資質・能力の育成に関わる言語活動の研究を進めていきたい。そして、そのことが日々の国語の授業だけでなく、各教科等においても生きて働く言語活動を通して言語能力を育成していくことにつながると考える。

(2) 主題について

新「学習指導要領」における言語活動は、「記録・要約・説明・論述・話し合い」となっている。この中の「話し合い」がH29年版の変更点である。まさに「教える授業」から「学び合う授業」学習への転換である。求められているのは、知識を受信し習得させるだけの授業ではなく、受信したものを基にして考え、協働によってその考えを広げたり深めたりすることを通して、〔思考力、判断力、表現力等〕という資質・能力を育成していく授業である。「分かりきっていること」ではなく「分からないこと」を話題にして考え、その考えを交流することで資質・能力を育成するという考え方である。しかし、「言語活動」は、ともすると活動自体が重視され、活動を通して育成すべき資質・能力が軽視されてしまうことがないとは言えない。前述にも示したが、新「学習指導要領」の「第1 目標」のなかで、「言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」とある。これにより、言語活動そのものを対象とするのではなく、言語活動を通して国語の資質・能力の育成を図ることが大切だと示されている。

また、授業づくりでは、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、単元として資質・能力の育成をすることが求められている。3観点を1時間で指導し、学習評価を行うことは難しい。国語においては、1時間のみを対象とした指導案ではなく、単元の中で各時間のつながりが見え、資質・能力が育成されるプロセスが見えるような単元計画こそ大切にしたい。それにより、「言語活動を通して」形成される授業になると考える。

令和5年度の研究実践では、ICTの効果的な活用があった。今年度も、子どもの実態に応じて教科書教材を教材化し、言語活動を充実させるためのツールとして使う手立てを考えていければいいと考える。また、今年度は、教科書改訂の初年度のため、前年度の研究を生かしながら、新しい言語教材の研究を進めていきたいと考える。

以上の点を踏まえ、「話すこと・聞くこと」領域においてどのような言語活動を用いれば、国語の資質・能力の目標達成実現が図られるのか部会員と力を合わせて研究を進めていきたい。尚、第28期の研究計画にあった「主体的・対話的で深い学び」の例を以下に示した。今期も指導計画をたてる際に位置付けていきたい。

国語科における主体的な学び

学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面の設定

〈例〉個の問いを顕在化する工夫、試行錯誤できる学習環境、学習内容のまとめ・適用、必要感のある課題設定、多様な学び方の提供、文字言語での振り返り

国語科における対話的な学び

対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面の設定

〈例〉対話する必然性のある課題設定、学習内容に応じたグループサイズ（ペア→グループ→全体等）の運用、情報の取捨選択、話を聞き合える関係性の構築

国語科における深い学び

児童が考える場面と教師が教える場面の組立て

〈例〉知識や技能の適用場面を設定、既習内容や経験と関連付けた思考の促進、個の問いの顕在化、必要な課題の設定

2. 目指す子ども像

- (1) 相手意識・目的意識をもって自分の考えを形成できる子ども
- (2) 協働しながら考え、学び、言葉がもつよさを認識できる子ども

3. 研究仮説

指導事項や学習内容を明確にし、学習過程を工夫することにより、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深められる児童を育てることができる。

Ⅲ. 研究内容

1. 研究領域

「話すこと・聞くこと」領域の言語活動を取り入れた場面

2. 研究の柱

- (1) 「内容・構成の検討」「考えの形成」における「話すこと・聞くこと」を高めるための指導事項
- (2) 「話すこと・聞くこと」を高めるために効果的な「主体的・対話的で深い学び」

3. 教育課程研究

教育課程委員研修会において、第 29 期研究の一環として、第二次研究協議会で扱う教材以外についての「指導事例」を試作し、部会員に配付する（予定）。

Ⅳ. 研究方法

1. 令和 5・6 年度の 2 カ年計画で行う。
2. 中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。各市町村第二次研究協議会における授業公開および石教研第二次研究協議会での提言を行う学年と教材について、表にまとめた。「聞く」「対話の練習」「話し合う」の項目から選んでいるので、原則次のおりとする。なお、授業を行う学年の指定は行わない。

| 学年 | 教材名 | 言語活動例 |
|------|---------------------------------|---|
| 1 年生 | すきなこと、なあに みんなにしらせよう | ○紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動 |
| 2 年生 | あったらいいな こんなもの そうだんにのってください | ○尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動 |
| 3 年生 | こんな係がクラスにほしい おすすめの 1 さつを決めよう | ○説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動 |

| | | |
|-----|-----------------------------|---|
| 4年生 | あなたなら どう言う クラスみんなで決めるには | ○質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動 ○互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動 |
| 5年生 | どちらを選びますか よりよい学校生活のためには | ○意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動 |
| 6年生 | いちばん大事なものは みんなで楽しく過ごすために | ○インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動 ○それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動 |

3. 各市町村サークルは、主題の解明を図るために、以下の要領で部会研究を進める。
 - (1) 授業学年の各教材について、「どの教材でどのような言語活動が適切か」を、児童の実態を鑑みながら検討し、年間指導計画を作成する。
 - (2) 年間指導計画に沿って、公開授業単元の学習構成を検討する。
※指導案の指導計画に「主体的・対話的で深い学び」についての記述を加える。(詳細は「研究ガイド」)
 - (3) 授業公開後、事後研を持ち、提言をまとめる。
※年間指導計画、指導案形式、提言の形式については新年度発行の「研究ガイド」に掲載する。
4. 実技理論研修会を開催し、日常の実践に生きる学習の場を設定する。
5. 「各学年の指導事項」を作成し、年間指導計画作成の際に役立てられるよう、HPにも掲載する。

V. 研究体制（組織・運営）

1. 研究センターサークルは、研究2年次目の令和6年度は北広島市とする。
2. 分科会構成は、低・高の2ブロックを基本とする。分科会での研究協議は、センターサークルの授業提言の他、各市町村サークルの提言を主とするが、個人レポート提言も受け付ける。また、分科会協議の深化を図るため、各市町村の提言状況やレポート数によって時間配分を考慮する。
3. 推進委員研修会（部会役員・各市町村の推進委員）を組織し、研究計画の具体化や石教研第二次研究協議会の運営等について協議する。
4. 定期的に部会報「はまなす」を発行し、研究内容や各種研修会の周知等に努める。
5. 「研究ガイド」を発行し、部会研究の取り組みの向上と焦点化を図る。

VI. 年間計画

| 時期 | 研修会名・事業名 | 内 容 |
|-------|-----------------------|--|
| 4 月 | 石教研専門部会第一次研究協議会・役員研修会 | 研究計画、研究体制の確認 |
| | 「はまなす」No.1 発行 | 年間指導計画様式 |
| 5 月 | 役員研修会、推進委員研修会① | 各市町村提言予定状況の確認 |
| 6 月上旬 | 「はまなす」No.2 発行・研究ガイド発行 | 各市町村提言予定状況、部会事業計画、サークル便り交流、第二次研究協議会に向けて提言の仕方提示 |
| 7 月 | 推進委員研修会②、役員研修会 | 第二次研究協議会開催要項検討 |
| 8 月 | 実技理論研修会（予定） | |
| 9 月上旬 | 「はまなす」No.3 発行 | 第二次研究協議会開催要項 |
| 10 月 | 第二次研究協議会拡大推進委員研修会 | 第二次研究協議会開催要項確認 |
| | 石教研専門部会第二次研究協議会 | 授業提言、分科会交流 |
| 11 月 | 推進委員研修会③、役員研修会 | 第二次研究協議会交流、アンケート見解検討、「石狩の教育」原稿検討 |
| | 「はまなす」No.4 発行 | アンケート集約、見解 |
| 12 月 | 役員研修会 | 次年度研究内容の立案・検討 |
| 1 月 | 推進委員研修会④、役員研修会 | 次年度研究計画案内容検討 |
| | 「はまなす」No.5 発行 | 次年度研究計画案提示 |
| 2 月 | 推進委員研修会⑤、役員研修会 | 次年度研究計画案意見集約・検討、修正 |
| 3 月 | 「はまなす」No.6 発行 | 次年度研究計画決定版・教育課程委員検討内容 |

教育課程委員会については、随時開催する。

（文責 福島 剛）